

## AWFC:なかほら牧場

		基準	現況	1step(1年目)	2step(2年目)	3step(3年目)	達成
① 飢えと乾きからの自由	飼料	主食(晩春～秋)	野シバ、野草、木の葉等粗飼料	○			
		主食(晩秋～春)	ロールサイレージ、国産乾	一部購入			
		おやつ	ビートパルプ、粉碎焙煎大豆、小麦圧片、大麦圧片	○			
	水	放牧地	山清水(潤沢で、自由に飲める)	○			
		パドック	井戸水(きれいかつ、潤沢で自由に飲める)	○			
② 不快からの自由	放牧状況	当該牛	全頭通年昼夜放牧	厳冬期の出産間際の母牛、出産直後の仔牛、離乳期の仔牛、治療中の牛を除くすべての牛は、通年昼夜放牧を実施			
		放牧地飼養頭数	放牧地1haあたり2頭まで	2016年5月まで50haに約80頭放牧(本牧場) 2016年6月から30ha拡張(混牧)	本牧場…妊娠牛、搾乳牛、種牛 混牧林…未経産牛、仔牛、去勢牡牛	種牛の導入	
		パドック		▲長い間の使用により、泥濘	泥濘改善		
	放牧地環境		林とシバ草地があり、休息環境、運動環境も充分確保	間伐を進めて、シバ草地の拡大をはかる	侵略的外来草の駆除		
③ 痛み、傷、病気からの自由	断尾、除角		実施せず	○			
	去勢		4ヶ月齢 バルザック去勢	近親交配を避けるため今後も実施			
	削蹄		急峻な山に放牧しているため自然摩耗するので削蹄不要	不要			
	厳冬期の分娩	搾乳舎内敷藁ゾーン					
	療養時	搾乳舎内敷藁ゾーン					
離乳期	搾乳舎内敷藁ゾーン						
④ 正常行動発想の自由	繁殖・導入		自然交配	本牧場種牛1頭、必要に応じて他牧場からの導入あり	混牧林に種牛1頭導入		完全自家繁殖(後継牛の完全自給)
	分娩		自然分娩	通常は、放牧地内で自然分娩、厳冬期は、舎内で見守り分娩			
	哺育		2～3ヶ月間直接母乳哺育		○		
⑤ 恐怖や悲しみからの自由							
● その他	搾乳環境	原乳菌数	400万以下				
	乳製品	化学的添加物不使用					